

(様式2)

## I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

綾川町立綾上小学校

### ◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
1学級 23名	1学級 29名	2学級 41名	1学級 29名	2学級 37名	1学級 33名	2学級 4名	10学級 196名

○教員数 16名

### ◆学校の特色

本校は、平成17年4月に5校が統合し、今年度で14年目を迎える。児童は、多くの人の愛情を受けて育った素直な児童が多く、決められた課題に取り組もうという気持ちをもっている。一方で、自分のよさに気づき、主体的に周りに働きかけたり、困難なことに挑戦したりしようとする児童は少ない。また、新たな人間関係づくりに自分から関わろうとする意欲が低い傾向にある。

## II 研究主題等

研究主題

### きき合い、かかわり合い、学びを楽しむ子どもの育成

#### ◆研究主題設定の理由

本校では、28年度より「アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業」の指定を受け、児童が学ぶ楽しさを実感し、主体的に学習に取り組む授業を目指して、児童の興味・関心に沿った教材開発やカリキュラム・マネジメントに取り組んできた。

昨年度の研究成果として、児童の意識を大切に単元化を行うことで、主体性を生かした活動が展開でき、意欲の向上が見られるようになった。振り返りの中で、課題に対する気づきを自分の言葉で書く、本時に分かったことをもとに次の課題を考える、友達の考えを取り入れ、自分の考えに生かそうとすることになってきている。また、ペアや小グループを編成し、思考ツールを活用し、学び合う場を設定することで、友達とかかわることを楽しいと感じる児童が増えている。「きく・語る」意欲やスキルを培う場を設定することで、異学年の友達とも話し合うことを楽しむ姿が見られた。

研究の途上で新たな課題も生まれてきた。第一は、振り返りのよさを児童自身に実感させ、児童にとって「価値のある振り返り」とするための教師の支援である。第二は、児童が意欲的に学びに向かえる単元化と、主体的にかかわり合い、協働的な学習ができる教師の支援である。

そこで、昨年度に引き続き、研究主題を「きき合い、かかわり合い、学びを楽しむ子どもの育成」と、設定し、実践・研究を積み重ねていくこととした。

「**きき合い**」とは、自分の思いや考えに引き付けて他者の考えをしっかりと聞き、そこから生まれた疑問や新たな考えを伝え、互いにより深い考えを見付け出そうとすることである。

「**かかわり合い**」とは、「もの」や「こと」に対して、疑問や興味をもち、新しい視点からより深く対象に迫ることである。また、友達のよさや自分との相違点に気づき、自分の思いや考えが深まるように、相互に伝え合うことである。

「**学びを楽しむ**」とは、学びたいという気持ちと、学んでよかったという実感を振り返りによって確かなものとし、新しい課題を見付け、学び続けたいという主体的な態度をもつことである。

研究の柱は以下の3点である。

- ① 自己内対話を促す「きく・語る」活動の研究
- ② 「もの・人・こと」への「かかわり」を促す教師の支援（教材開発・単元化等）の研究
- ③ 学びをとらえ直し、自己理解や認識の再構成を促す「振り返り」の教師の支援についての研究

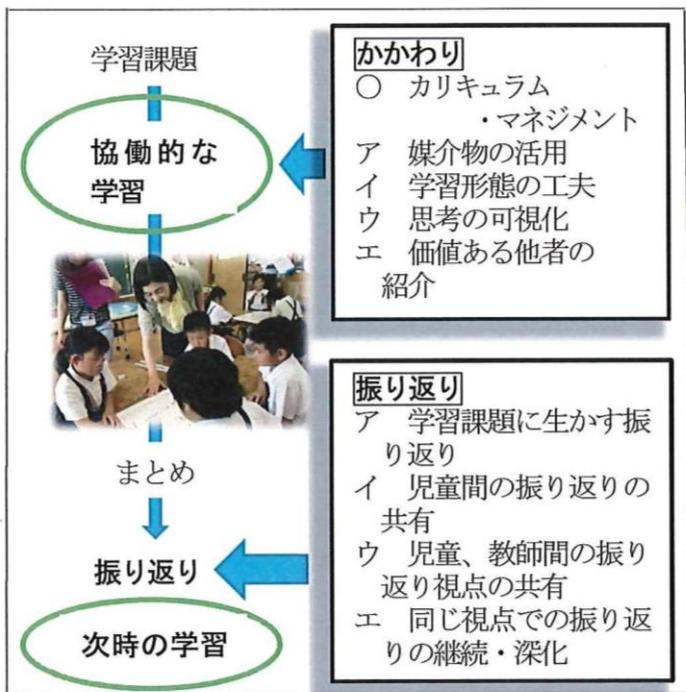
◆研究内容及び方法

1 研究主題 きき合い かかわり合い 学びを楽しむ 子どもの育成

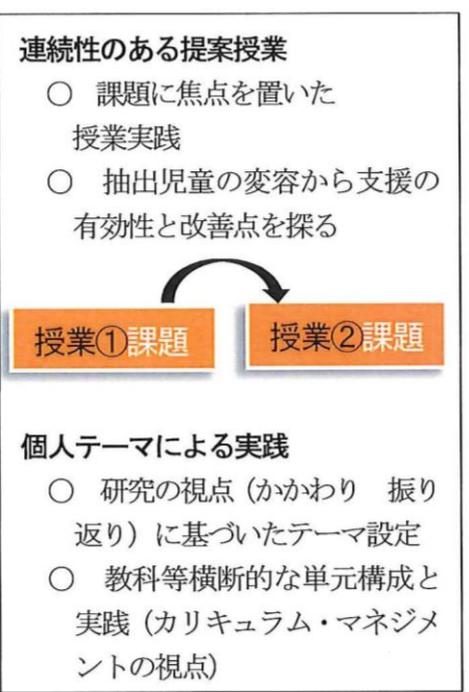
2 研究の具体

「主体的・対話的で深い学び」を実践するための教師の支援を「かかわり」「振り返り」の視点から実践・考察する研究

【内容】「かかわり」「振り返り」を促す教師の支援 ア～エ



【方法】



### III 研究実践

1 (児童質問紙) 学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができましたか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計



指標の達成に向けた実践

#### ○ かかわりの充実を促す教師の支援

- ①「かかわり」の基本的な考え方 協働的な学習ができる児童をめざします。 ②具体的な実践

**めざす子ども** 友達よさや自分との相違点に気付き、自分の思いや考えが深まるように、相互に伝え合うことで、「もの」や「こと」に対して、疑問や興味をもち、新しい視点からより深く対象に迫ることができる。

**課題解決的な指導過程**

全学年

きく・語る

学習課題

↓

くらべる

↓

つなげる

↓

まとめる

等

↓

まとめ

**「かかわり」を促す教師の支援**

「きく・語る」を基盤として、ア～エの支援を行うことで、児童が、かかわり合い、協働的な学習ができることをめざす。

基盤となる「きく・語る」能力の向上のため「かかわりのスキル」を取り入れ、児童間の話し合いを促す。

なお、児童間の話し合いの深化を促すための視点として「くらべる」等の思考様式を取り入れる。

**ア 媒介物の活用**  
もの・人・ことにかかわることへの意欲を促すために、カリキュラム・マネジメントを行うとともに媒介物(動画や写真・絵等)を活用する。

**イ 学習形態の工夫**  
人とのかかわりを促すような学習形態を工夫する。

**ウ 思考の可視化**  
思考ツール等を活用して、思考の可視化をしたり、交流の仕方を工夫したりする。

**エ 価値ある他者の紹介**  
誤答の提示による教師のゆさぶりや違った視点からの考え等、異質な考え方に出合わせる。

**かかわりのスキルの向上に向けて**  
＜ペア・グループ学習等のルールの明確化＞

本校では、右記のように、ペア学習等のルールを決め、日常的に実践している。

＜配慮事項＞

- 聞き手と話し手が固定されずに、対等になるように、「聞くこと」をベースにする。
- 時間いっぱい「聞き合う」ようにする。
- 考えの根拠も「聞ける」ようにする。

⑦⑥⑤④③②①

むかいあって、かおを見て、時間いっぱい、じぶんのかんがえとくらべて、聞きあいましょう。

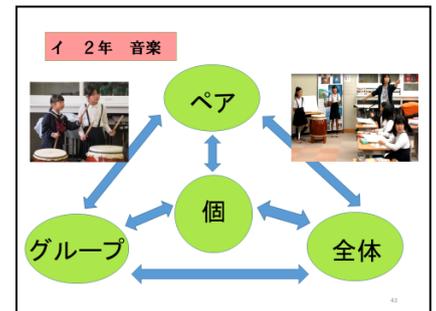
○ ○さんは、どんなかんがえですか？  
わたしは、たとおもいました。  
どうして、ちがうかんがえたのですか？  
からです。○ ○さんは、どんなかんがえですか？  
どうして、ちがうかんがえたのですか？  
からです。

2年

**ア 5年 外国語**

相づちや表現がわからない時のフレーズをビンゴカードで紹介

Fantastic 最高!	Cool! いいね	That's right. そうだね
Sounds good! いいね!	Bingo! 当たり!	Exactly. その通り!
Great! すごいね!	That's nice! 結構いい!	yes! うん!



**ウ 3年 理科**

Yチャートを使ったグループでの思考の可視化

③通す・通さない・どっちの3つに分類

考えるきっかけ

どっち

**エ 1年 国語**

①メタ認知を促す声かけ

②課題に応じたグループ構成

③学び合いを動画で共有

2 (児童質問紙) 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

指標 「①取り組んでいる+②どちらかといえば取り組んでいる」の合計



指標の達成に向けた実践

○ 振り返りの充実を促す教師の支援

①「振り返り」の基本的な考え方 振り返りのよさを児童が実感できることをめざします。

②具体的な実践

めざす子ども	振り返りによって、学びたいという気持ちと学んでよかったという実感を持ち、新たな課題を見付け、学び続けようとする。		
	<p>「振り返り」を促す教師の支援</p> <p>縦の振り返り 単元の初めに、自分の思いや考えを書かせる。単元の終わりに分かったこと、気付いたこと、もっと知りたいことなどを書く場をもち、自己の変容に気付かせる。</p> <p>横の振り返り もの・人・ことへのかかわりを深めることができる単元開発や教材研究を行うことで、自分とまわりとのつながりに気付かせる。</p> <p>ア 学習課題に生かす振り返り 学習前の自分を振り返り、学習前の振り返りとなるようにする。</p> <p>イ 児童間の振り返りの共有 グループ内で振り返りについて話し合ったり全体で振り返りを共有したりする場をもち、学習したことや価値付けや次の課題意識につなげる。</p> <p>ウ 児童、教師間の振り返り視点の共有 単元計画や目標を児童とともに作ることで、振り返りの視点を児童と共有するとともに、振り返りのよさを味わえる支援を行う。</p> <p>エ 同じ視点での振り返りの継続・深化 振り返りの視点を示したり、振り返りのモデルを紹介する場を設けたり、全ての児童が、学びを深めるための価値ある振り返りができるようにする。</p>		
	<p>〈学習に対する満足感〉</p> <p>分かったことやできるようになったことを書くことで、学習に対する満足感をもつ。</p> <p>1 学期 分かったことを見付ける。</p> <p>2 学期 分かったこと、できるようになったことを見付ける。</p> <p>3 学期 自分が分かったこと、できたことを見付け、どんな気持ちになったか伝える。</p> <p>〈学ぶことのよさを実感〉</p> <p>振り返りにより、自身の伸びに気付く、学ぶことのよさを実感する。</p> <p>1 学期 振り返りを友達に伝える。</p> <p>2 学期 友達との振り返りを比べ、同異を見付ける。</p> <p>3 学期 友達の振り返りのよさを受け止め、伝えることができる。</p> <p>〈学びの深まりを実感〉</p> <p>振り返りの有用感を感じて、自身の学びの深まりを実感することができる。</p> <p>1 学期 友達の振り返りに対しての気付きを伝える。</p> <p>2 学期 振り返りによって学びが深まったことを認識する。</p> <p>3 学期 振り返りを今後の生活や学習に生かそうとする。</p>		
	<p>低</p> <p>いつまでに</p> <p>どんなことが</p> <p>中</p> <p>どれくらい</p> <p>高</p> <p>できるようになることをめざすか</p>		

ア 3年 国語

学習する前と後の自分の力を比べて、振り返る。

学習前

学習後

前よりも簡単に書けたよ。メモがすっきりしたよ。次は、上手にメモできそうだよ。

イ 5年 社会

グループ内で振り返りを行う。

友達の考えを聞いて、工場を構える理由は1つではなく、多くの理由があることが分かったよ。

グループ内で振り返ると視点を広げる考え方を広げることができる。

ウ 2年 生活科

活動ごとに、自分たちにどんな力を付けたいかを考え、振り返りに生かす。

学習課題

振り返り

わたしは、1年生にいろいろ聞いてあじわいました。

エ 6年 総合的な学習

〈振り返りの3ステップ〉

学びのステップ① 「知る」

学びのステップ② 「考える」

学びのステップ③ 「広げる」

3 (児童質問紙) 授業の内容がどの程度分かりますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計



指標の達成に向けた実践

○ 児童の興味・関心に応じ、教科間の関連を生かしたカリキュラム・マネジメント

児童の発達段階や実態に応じて、中心となる内容を決め、テーマを設定する。自己肯定感をもち、社会参画ができる児童をめざすために「自分から友達等の身近な人」、「地域の人や環境」、そして、「地域に積極的にかかわること」と対象を広げていく。そのために、軸となる教科等を設定し、地域の素材を活用した教科等横断的な視点から単元を構成している。



◆特徴的な取組

連続性のある提案授業

「連続性」とは提案授業で示された研究主題に基づいた課題を、次の提案授業の課題として取り組むことである。その際、予め抽出した児童の変容から、教師の支援の有効性と改善点を探ることで課題が焦点化され、研究が深化することをねらう。

連続性のある提案授業の取組

(1) 提案授業①で示された課題

提案授業②で①の課題を踏まえて取り組む。  
抽出児童の変容から教師の支援の有効性と改善点を探る。

(2) 提案授業②で示された課題

提案授業③で②の課題を踏まえて取り組むことで、課題の焦点化をねらう。  
抽出児童の変容から教師の支援の有効性と改善点を探る。

Together

NO.16 (校内研修便り)

9月26日の研究授業・討議では、提案授業に取り組んでいた森藤先生、本当にありがとうございます。さて、討議・指導を通して明確になりつつある今後の課題について提示します。

- 課題1:話し合いが活性化しないグループへの手立て  
→ 課題別のグループ編成+教師のかかわりを促すための意図的な3人組のグループ編成 イ 学習形態の工夫
- 課題2:振り返りのための手立ての工夫  
→ 教師が児童に付けたい力として「3つの振り返りの視点」の提示。→「はっと」  
→ 毎時の目標を到達のために児童の意欲を喚起し、継続させるための工夫。→「顔パーツ」  
エ 同じ視点での振り返りの継続
- ☆ 抽出児童の担任の見取りと授業における記録の在り方 ※裏面参照

かかわり 振り返り

課題1 必要感のある「問い」のもたせ方と「問い」の共有化  
課題1' 児童が本時、到達する基準の明確化

「問い」は「主体的・対話的な学び」につながる。児童にとって「問い」に必要感がなかったり、「何を話したいのか」「何をするのか」が十分に認識されていなかったりした場合、充実した「かかわり」は生じない。充実した「かかわり」なしに、充実した「振り返り」も生じない。  
例: 1年提案授業における必要感とは、「児童が、この表現をぜひ使いたいと思えるか?」と感じることである。与えられたものをそのまま使うのでは必要感が生じない。必要感が生じる「問い」が必要である。また、「質問・感想マスターとはどんな状態になることか?」という本時のゴールである基準が不明確であったため、児童に「私は～ができるようになりたい」という目標が十分にもてなかったのではないかと。

★ 対策

- 児童にとって話し合う必要感が生じる「問い」と「問い」の共有化 → 課題の焦点化
- 教師が児童に伝えたい明確で具体的な基準の設定 (例: 1年提案授業の「質問・感想マスター」とはどのようなことを児童が捉えた状態なのか?)

かかわり

課題2 学習に深まりをもたせる全体での交流の在り方

グループでの学習は限界がある。もう一步、踏み込み、「深い」学びにするための手立てが必要ではないか。

★ 対策

- 全体で話し合う場を設け、一歩踏み込んだ交流することが「深い」学びにつながる。

振り返り

昨年度からの課題

課題を焦点化する校内研修便り

課題解決に臨む提案授業の実践例

提案授業① 3年国語科

授業中の児童の姿

- グループでの話合いで、一人ひとりの児童が対等に学び合えない。
- 自分の考えがないため、主体的なかわりができない。



課題1:グループ学習における「かかわり」のスキルの向上

課題2:個の考えがもてない児童への支援



提案授業② 5年家庭科

課題1を受けて

グループでのカード操作による比較・分類 (話し合いを活性化させる支援)

課題2を受けて

実物提示による共通体験をもつ場の設定 (根拠をもち話し合うための支援)



授業中の児童の姿

- グループによる話し合い活動に差
- 視点をもって振り返りができない



課題3:話し合いが活性化しないグループへの支援

課題4:振り返りのための支援の工夫



提案授業③ 1年国語科へ

◆特徴的な取組

## 個人テーマ

研究主題に基づいて個人テーマを設定し、教科等横断的な視点から単元を構想し、実践する。その際、より焦点化した取組とするために、研究の視点である「かかわり」、「振り返り」の基本的な考え方に基づいて計画・実践を行う。

学年	個人テーマ
1年	かかわりを楽しみにし、意欲的に自らの世界を広げていく学習指導
2年	児童が自分の伸びに気付ける振り返り
3年 1組	児童が自分の成長を実感できる振り返り
3年 2組	自ら課題をもち学びを楽しむことで、自分の伸びを実感できる振り返りの工夫
4年	児童の意識をつなげる単元構成の工夫と「かかわり」における活性化を図る教師の支援
5年 1組	自分の考えと友達のことを比較したり、まとめたりして学習の深化をめざす学習
5年 2組	グループで課題を解決し、振り返りを通して、学びの深まりを実感できる学習活動
6年	振り返りの紡ぎによって生まれる児童主体の単元構成
なかま 1組	他者と主体的にかかわることができる学習の充実
なかま 2組	視覚支援を促す教材を使って、理解を促す学習
理科 専科	観察や実験を通して、児童が主体的にもの・人・こととかかわり、対話的に学ぼうとする学習の工夫
音楽 専科	音によるコミュニケーションを基盤として、主体的に取り組む音楽学習の工夫
書写 専科	振り返りを生かした学習目標の具体化



## IV 研究の成果と課題

- 1 各種の質問紙調査【a. 平成30年度県学習状況調査 b. 児童評価カード（本校作成）】の結果  
以下、a・bとも5月から11月の調査から作成

（赤字→「よくできた」の回答：黒字→「よくできた」+「だいたいできた」の回答）

### ① 学習の基盤となる「きく・話す・書く」の向上【a・b】

【a】友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞く  
ことができているか。 42p→50p

+8p

＜教員質問紙＞  
「考えを引き出した  
り、思考を深めたりす  
る発問や助言」  
11月 100%

【b】自分の考えを書いたり、話したりできましたか。

+4p

46p→50p

### ② 安心して友達と「かかわる」ペア・グループ等の活動

【b】ペア、グループでの話し合いができましたか。

+7p

＜教員質問紙＞  
「学び合う場の保障」  
11月 100%

44p→51p

【a】学級では、安心して自分の意見を言うことができ  
ていますか。 69p→73p

+4p

### ③ 友達とかかわり、次時の学習へ意欲をもち取り組む「振り返り」

【b】学習を振り返って、もっとしてみたいと思いましたか。

+17p

43p→60p

【a】分からない問題があるとき、見方や考え方を変えなが  
ら、あきらめずに取り組んでいますか。 83p→91p

+8p

＜教員質問紙＞  
「振り返りの工夫」  
11月 93%

### ④ 生徒指導・自己肯定感への影響

【b】友達のよいところを見つけ、なかよくできましたか。

+16p

44p→60p

【b】「自分によいところがある」「やればできる力がある」  
と思っていますか。 56p→51p

-5p

### 2 考察（○・・・成果 ●・・・課題）

- ①○ 児童が意識して学習の基盤である「きく・話す・書く」に取り組んでいることがうかがえる。その際、教師の支援が児童の活動を促したとも言える。
  - ②○ 「Ⅲ 研究実践 1」の指標は下がった。しかし、【b】の全校生対象の調査では伸びた。また、【a】の「学級への安心感」が伸びたことから、グループ活動等で安心して児童が活動している様子がうかがえる。
    - グループ等の話し合いのよさを実感できていない児童がいる。原因としてグループ内の役割の固定化等が考えられる。
  - ③○ 「Ⅲ 研究実践 1」の指標は下がった。しかし、【b】の全校生対象の調査では伸びた。また、【a】の「あきらめずに意欲をもち学習に取り組む」が伸びたことから、友達とかかわることで、粘り強く取り組み、次の学習に意欲をもって取り組む様子が推察できる。
    - 振り返りのさらなる活用法、時間の確保や日常化につながる実施方法等の研究を継続する。
  - ④○ 友達のよさに目を向ける児童の割合が伸びていることから、グループでの学習や振り返りで友達のよさに目を向ける取組が、向上した一因ではないかと考える。
    - 自己肯定感の割合は下がったが、他者とかかわりの中で、自分を客観的に振り返る児童が増えていると考えることもできる。
- 県学習状況調査において、平均値が向上した学年があることから、「かかわり」「振り返り」「カリキュラム・マネジメント」に視点を置いた研究が基盤となったのではないかと考える。